ゆめごよみ風だより99号

ＫＳＫＰ通巻12246号　2022年6月21日　発行

特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

INDEX（もくじ）

●ゆめ風基金に心を寄せていただいている皆さんへ

●総会報告

●3.16福島県沖地震

●リレー・エッセイ　災害と障害者第72回

●市民防災助成金/チャリティコンサート

●応援団からこんにちはVOI.2

●カンパをいただいた団体/事務局の動き

●会計報告(別紙)

●各地からの風だより

ゆめ風基金に心を寄せていただいている皆さんへ

新代表理事　とだ　じろう

３月20日の認定ＮＰＯ法人（＊）「ゆめ風基金」第21回総会後の理事会で代表理事に選任されました戸田二郎です。

私は１９５１年に生まれで現在71歳。生まれて間もなく（母親の話によれば生後３か月ということ）ポリオに罹患し、その後歩行障害を持つことになりました。牧口一二前代表理事と同じ障害です。小学校・中学校と地域の普通学校に通い、卒業と同時に小さな印刷会社に入社。８年ほど勤めた後、解雇され自営業を始めました。（今はほぼなくなっている写真植字という仕事）ちょうど同じ年の１９７６年大阪で結成大会が開かれた「全障連（全国障害者解放運動連絡会議）」に参加。幹事となり現在もその任に当たっております。ここの関係で牧口前代表や故河野秀忠副代表と出会いました。障害のある子どもと障害のない子どもが、同じ学校で学びあえる事を求めて各地で行われていた就学運動に関わり、岐阜の地でも普通学級への就学の取り組みを行ってきました。

また今から35年前、岐阜駅の鉄道高架事業が行われることに伴って、駅舎が新しくなる機会に、駅にエレベーターを設置する運動も行ってきました。その時は駅員の対応がないと利用できない不十分な形でのエレベーターの設置でしたが、その後も要望を続けて、今、駅員対応が必要のないバリアフリー化に向けての工事が進んでいます。

障害を持つ人たちが気兼ねなく、安心して集うことができる場所を作ろうと、古い民家を借りて「つっかいぼう」を設立しました。因みにこの名前の由来は、4畳半の部屋の真ん中に細いつっかいぼうがしてあり、これを外すと天井が落ちるから気を付けてと大家さんから言われ、どんな小さな力でも、障害のある人もない人もお互い支え合おうとの思いを込めて名付けました。現在はＮＰＯ法人「障害者自立センターつっかいぼう」の理事として介護派遣・就労継続支援Ｂ型事業所の運営と新たにグループホームの建設を計画してい

ます。また、認定ＮＰＯ法人「ＤＰＩ（障害者インターナショナル）日本会議」の特別常任委員も務めています。

27年前の阪神淡路大震災の時は、神戸から遠く離れた岐阜の私の家でも大きな揺れを感じました。テレビから流れる惨状に驚いていると、神戸から全障連で出会った友人が発信するＦＡＸが一日に何通も届き（今のようにＳＮＳがない時代）、救援物資の依頼の中に救援活動の移動に５０ｃｃのバイクが必要とあり、丁度依頼されていた講演を終え夜の９時頃作業所の職員の運転する車でバイク２台とその他の救援物資を積んで神戸に向かいました。とりあえず真っ暗な中、路上に車を止めて仮眠をし目覚めるとそこには壊れたビルがあり地震の大きさを実感し、開設されていた被災地障害者センターに向かい物資を届け、情報を頂き岐阜へ帰り街頭募金を始めました。

大震災を契機に設立された「ゆめ風基金」にネット岐阜として参加させていただき、多くの人たちとつながり、8年前からは理事を務めさせていただいています。

昨年末の理事会で、牧口さんが代表理事退任を表明され、後任の代表理事にとの声をかけていただき正直非常に迷いました。27年間代表理事を務めた牧口さんの活躍を間近に見てきた一人として、私にこの重責が務まるのかと。

災害は後を絶ちません。阪神淡路大震災以降も、新潟県中越大震災、東日本大震災、熊本震災、その他豪雨等の水害も多数発生し、ゆめ風基金の役割は大きくなっていると思います。

私一人ではこの大役は務まらないかもしれませんが、４０年以上地道に取り組んできた地域社会で障害者が生きやすくなる取り組みの経験と、呼びかけ人の皆様、ネット会員の

皆様、理事の皆様の力をお借りして、微力ではありますが務めさせていただきますので、牧口さん同様よろしくお願いいたします。

（＊　認定ＮＰＯ法人・・・税制上の優遇措置として寄付金控除が受けられるＮＰＯ）

総会報告

事務局長　やはた　たかし

３月２０日にゆめ風基金の第21回定時総会が行われました。今回もZOOMを利用したＷＥＢによる参加者を交えた会合となりました。参加者は４７名（委任状22名含む）となり、会員数69名なので、過半数以上の出席があり総会は成立しました。

議案としてはいつも通り昨年度の事業報告、会計報告と今年度の事業計画、活動予算などがあり、可決されました。

内容としては、昨年は大きな災害が２件あり、それ以前の災害支援も含めて10カ所に救援金10,６３７,８００円をお届けしたことを報告しました。くわしい活動報告や決算報告はゆめ風基金のホームページをご覧ください。

昨年よりクレジットカードを利用した寄付が可能となり、多くの方に利用していただいたことや、やはりコロナによる影響で、講演がＷＥＢを利用したものが多かったこと、またカタログハウスとともに主催している東京イベントもはじめてＷＥＢによる配信となったことが報告されました。

前号でお知らせしたとおり、牧口さんから代表退任の表明があり、総会後の理事会で戸田二郎新代表を選任しました。また新たな副代表としてふちがみ　けんじ氏を選任する

とともに福永年久副代表の再任が決まりました。

総会ではこれまでの牧口さんの活動を労う声が多くありました。

総会後は各地からの近況を届けてもらいましたが、昨今の状況を受けて、ロシアがウクライナを攻撃していることに心を痛める声が多く出ました。

またコロナ禍も全国に広がっている状況で、各地での感染状況やその対策についての話もありました。

この３年間はコロナの影響を受けて、画面上でしか顔を合わせられていないので、来年こそはいつものように顔を合わせての総会と交流会を開きたいという意見が多数ありました。

来年以降は総会を３月の第３土曜日で固定して行うことにしました。ゆめ風応援団の参加が今回はありませんでしたが、次回からはぜひ一緒に交流を深めていきたいと思います。

6.16 福島県沖地震

そうだ、ゆめ風に連絡、そして、カラスの巣よ、ありがとう

NPO法人麦の会（コッペ） 代表 いいじま しげる

3 月 16 日夜、3.11 を思わせる大きな揺れ。あの時の恐怖がよみがえる。自宅は本が落ちた程度。少しして、コッペへ向かう。夜だけど街中に向かう車が多い。やはり職場へ行く人たちか。コッペも幸い大きな被害はない。スタッフへその旨メール連絡。ＳＮＳにもコ

ッペは無事と投稿。

状況がわかってくるにつれ、福島沿岸と県南、県北の方の揺れがひどく被害も多いことが判明。

仙台市内は大丈夫だったかと思っていると、昨年12月に新築したばかりの建物に何か所も亀裂が入った、豆腐を製造する機械が故障した、グループホームの扉が開かなくなった、などと情報が入ってくる。

でもみんな何か遠慮がち。そういえば3.11の時もそうだった。より被害の大きかった人たちから比べると、被害があっても自分たちは大丈夫と言ってしまうような雰囲気が。とにかく「ゆめ風基金というのがあってそちらに情報を送るから、連絡が来たら詳しい状況を説明して」と伝える。

そうだ、ゆめ風へ連絡。そう思うのはやはり、3.11で多くの皆さんと出会ったから。皆さんの顔が浮かび、そのつながりを生かしたい。

3月16日は、ほぼ被害のなかったコッペを、3/31午前9時、なんの前ぶれもなく突然の停電が襲った。隣のセブンイレブンも真っ暗。どうやらこのあたりだけ停電らしい。

パンが途中で焼けなくなる。お届け予定の顧客へ連絡。停電時は携帯を多用する。よかった、今日たまたまモバイルバッテリー持って来てた。

あれ、きみたちなんで仕事してるの？

冷蔵庫あけないで、温度が上がってしまう。揺れてるわけじゃないけど、一応緊急事態だから何もしなくていいよ。みんななんて真面目なんだ、涙が出ちゃう。３．１１の時も

揺れがおさまったら、一人もくもくと仕事を再開したやつがいたな。災害時には何もしないように声をかけると、ＢＣＰ（事業継続計画）に書いておく必要があるか？

１時間ほどで復旧。懐中電灯も１つでは足りないよね、ポータブル電源も最近は 2～3万で買えるようだから用意するか、などと話していた最中の出来事。すぐに買ってくることにしました。

原因は近くの電信柱にカラスが巣を作っていたから。これも立派な自然災害か。

カラスの巣よ、先送りにせず行動することを思い出させてくれて、ありがとう。

COVID-19（コヴィットーナインティーン）

なぜ夢宙（むちゅうせんたー） センターはコロナとの闘（たた）いにも落（おちつい）ち着いて対処（たいしょ）できたか

NPO法人自立生活むちゅうセンター（大阪市（おおさかし））　コロナ対策室（ころなたいさく）　きくち ひとし

2020 年１月からはじまったコロナ禍（か）… あれから約（やくにねんはん）２年半。

夢宙（むちゅうせんたー）センター（以下（いか）、夢宙（むちゅう））のコロナとの闘（たたか）いは、周（まわ）りの人（ひと）たちとの出会（であ）い、サポートによりなんとか乗（のりこえて）り越えてこれたと感（かん）じています。

最大（さいだい）の転機（てんき）は、まだコロナの正体（しょうたい）も対策（たいさく）も分（わ）からないままだった 2020 年５月。

「ふんわりチャンポン大作戦（だいさくせん）」（感染症（かんせんしょう）に強（つよ）い福祉（ふくし）現場（げんば）を作（つく）る支援（しえん）プログラム）との出会（であ）いでした。この出会（であ）いが早（はや）かったことが夢宙（むちゅう）を救（すく）ったと思（おも）っています。

長崎（ながさき）の客船（きゃくせん）でコロナ騒動（そうどう）があったときに活躍（かつやく）したＡ先生（えーせんせい）とＢ看護師（びーかんごし）。

その知識も経験もある２人が夢宙に直接来てくださり、夢宙の活動に合った感染対策をアドバイス。

その後も夢宙でコロナ騒動があった時にも、引き続き優しくアドバイスをしてくれる存在でい続けてくれました。

それが、どれだけ夢宙のみんなにとって“安心”を得られるものだったか。

その柱があった夢宙にとって、その後コロナの牙が襲ったときでも、落ち着いて安心して動くことができました。

その他、日ごろからの地域のネットワークが夢宙を救いました。

コロナ関連でピンチと言われるものは、マスク・消毒液の不足、検査機関の不足、保健所に連絡がなかなかつかない問題…などなど。そのようなピンチの時に手を差し伸べてくれたのは…日頃より仲良くしてくれている団体、医療機関でした。

「助けて！」とメッセージを発すれば、どこからともなく支援が集まる。

感謝してもしきれないようなありがたいサポートを多方面からいただきました。

コロナ禍で、夢宙が実感した困難を乗り越える為に大切な事は…。

①日頃からのネットワークづくり

②受援力

日頃からのネットワークづくりの大切さは、みなさんご存じかと思います。ただ、それを非常時に活かせない問題はよく聞くところ。いくらたくさんのネットワークをもっていても使えなければないのといっしょ。

特に日本人は、困っている時に「助けて！」と言いにくいものです。

そこを一言【困った！助けて！】と言えるクセをつくっておくことが大切だと感じました。

いざという時に使えるネットワークの構築が団体を救う。

夢宙 センターはこれからも非常時に慌てず安心して対処できる仕組みを進めていこうと思います。

リレー・エッセイ　災害と障害者　第72回

誰もが取り残されない地域防災を目指して

ＮＰＯ法人ぱぁとなあ　代表　ちむら　たかし

プロフィール：1971年生まれ。生後３か月の時、脊髄に腫瘍がみつかり手術、その時の医療ミスにより脊髄損傷となり車いす生活に。ずっと普通学校で学ぶが、大学卒業時に社会の壁にぶつかって就職できずニートに。1993年無認可作業所「フレンズ」(ぱあとなぁの前身)と出会い、障害者自身が声を挙げ社会を変えていく活動の大切さを知る。現在、仲間の地域生活支援や次世代の当事者育成などに奮闘中。

はじめに

ぱあとなぁでは、自立生活センターとして東大阪市で暮らす当事者や家族の生活を支えていくために相談支援事業、ヘルパー派遣事業、通所事業などを展開しています。また、市内の取り組みだけではなく、今回お話を頂いたゆめ風基金さんが主宰する関西ポジティブ生活文化交流 祭などのイベントにも毎年出店 しています。

ぱあとなぁと被災地支援の関わり

私たちが強く防災の大切さを意識するようになったのは東日本大震災の時です。突然起こった大災害、そこで生活する仲間のために十分なサポートができなかった事がずっと心残りでした。次に仲間が困った時には何か力になりたいと思い続けていました。

2016 年 4 月に熊本地震が発生。震災直後にいち早くスタッフを派遣していた住之江区の夢宙センターから現地の情報を聞き、女性介助者を1 名熊本学園大学に派遣することになりました。また、震災直後の4月26日には関西のＣＩＬや障大連、ゆめ風基金などを中心に熊本の被災障害者を支援する関西実行委員会が立ち上がり、5月からもローテーションで計 11 名のスタッフを現地に派遣しました。現地では当事者の介助だけでなく、相談援助、社協のボランティアが踏み込めないような自宅の片付けなど内容はとても幅広かったと聞いています。救援募金活動も同時に行ってきたのですが、スタッフが熊本に行く前と後では「ぱあとなぁ」メンバーの募金活動への取り組みの熱意も違ってきているように感じた事が印象に残っています。

自立支援協議会での取り組みについて

そうしてスタッフを毎月順番に派遣していくうちに、じゃあ自分たちの暮らしている東大阪市の状況はどうだろうかと自然と考えるようになりました。その頃に立ち上がったのが東大阪市自立支援協議会の当事者部会です。団体の垣根を越え、東大阪市の事を一緒に考えていきたいという有志のメンバーで構成されており、ぱあとなぁも立ち上げ当初から中心的に関わっています。

当事者部会は現在「啓発活動」「バリアフリー」そして「地域防災」という3つの柱を掲げて活動しています。このように部会メンバーが防災について強く関心を持ったのも、当時の熊本の被災状況や当事者の困り事を共有したことが始まりでした。これまでの活動としては、市内の小中学校の避難所視察、備蓄品の確認、地域防災計画や避難行動要支援者名簿についての話し合いなどがあります。ここ数年は新型コロナウイルスの感染対策のため、協議会全ての会議がほとんど行なえていない状況でしたが、こんな緊急事態にこそしっかりと機能出来る自立支援部会や当事者部会であるべきだし、地域防災に取り組んでいる私たちの今後の大きな課題だと思っています。

東大阪市の取り組み（災害時の個別避難計画作成事業）

東大阪市での防災取組はこの間、同志社大学の立木茂雄先生の協力と共に進められてきており、大分県別府市の取り組みを参考に、令和元年度より「災害時ケアプラン」のモデル事業が取り組まれてきました。令和3年10月より「災害時の個別避難計画作成事業」と名前を変え引き継がれたこの事業は、避難行動要支援者名簿に登録している要支援者一人ひとりについて、避難支援を行う者や避難場所等、災害時の具体的な計画を作成する実験的取組です。令和3年度は市の東部地域の校区自治連合会単位でモデル実施され、国の指針に基づき、地域におけるハザード状況や、本人の心身の状況、独居等の居住実態等を鑑み、優先度の高い方から順にケアマネージャーや相談支援専門員等の福祉専門職が計画作成を担い、取り組みが進められています。

「市内学校施設におけるバリアフリー計画作成」

災害時に避難所となる小中学校のバリアフリー整備についても注目しています。

東大阪市では現在、東大阪市学校施設長寿命化計画に基づいた学校施設の老朽化対策が最優先に取り組まれており、バリアフリー化に関する計画については未作成の状況です。

また、インクルーシヴ教育の環境整備として、避難所、地域コミュニティの拠点として学校のバリアフリー化が進められようとしている中、学校体育館のエアコン整備は検討されていますが、体育館へのスロープや多目的トイレが未整備の学校については、現在実施している学校体育館空調設備整備の検討と併せて、スペースの有無や構造も含め整備可能か検討されている状況です。

最後に

東大阪市地域防災計画の内容を具体化していくため、平成20年11月に「東大阪市災害時要援護者避難支援プラン全体計画」（現、「東大阪市避難行動要支援者避難支援プラン全体計画」）に基づき、災害発生時に自ら避難することが困難な要配慮者などの避難支援等の取り組みを進めてきました。

「避難行動要支援者名簿」も、取り組み当初は一定人数の名簿登録者が増えましたが、ここ数年の現状としては新規登録者が増えず、名簿総数は減少傾向にあります。

このように、防災への取り組みは一進一退を繰り返しており、根気強く声をあげていく事が必要であると感じています。被災地の状況を自身の目でみてきた自分たちだからこそできる取り組みを、今後も東大阪市で続けていきたいと思います。

市民防災助成金

ゆめ風基金では障害者市民の防災活動にたいする助成を行っています。

大規模な自然災害が起きたときに、少しでも障害者市民が受ける被害を小さくするため、各地で取り組まれる障害者市民防災・減災活動に助成を行っています。助成は1事業につき、1回10万円を限度とします。今回はその支援を受けて防災活動を行った団体のかたにご寄稿いただきました。

「支援は継続なり」

NPO　法人　難病障　がい児者を支えるみなの会　こまい　ゆうこ

あの 11年前の東日本大震災の事は今でも忘れることはありません。最近の頻繁な地震がくる度、今でもあの時の事が思い出されます。私の娘が先天性の障がい（二分脊椎症）にてうまれたことをきっかけに、地域の様々な障がいの方と地域で安心・安全に暮らしていける支援をしようとこのＮＰＯをたちあげました。ゆめ風基金との出会いには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

どうにか障がい者向けの災害から身をまもる防災訓練をやりたいと考えていた時にゆめ風基金と出会いご支援を頂きました。みなの会の会員肢体不自由の娘や発達障がいの子ども向けに少しでも地域で災害がおきた時の防災訓練ができました。町会など地域の皆様へのお声がけで、皆様と学びながら共有できる時間を持てました。支援は継続なり、わたくしが常に思っている思いで防災訓練に関しては毎年恒例事業として活動させていただいて

おります。今では障がい者をはじめ、地域の方々との自助・共助・公助の学びをさせていただいております。

誰でも対応できる訓練「避難所設営訓練」主に自分たちで身をまもり、地域の方と共有しながら避難所を運営できる訓練をしております。コロナ禍の中何もできないじゃなく、Withコロナでいつ起こるかわからない災害から身を守る意識をどんどん広めていく事業・支援を継続させていただきます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

チャリティコンサート

昨年に引き続き、今年もゆめ風基金への寄付を目的にしたコンサートが催されますので、お知らせします。素敵なクラッシックのコンサートです。詳細はゆめ風基金ＨＰ（ホームページ）をご覧ください。

●コンサート in箕面

７月３１日（日）１６時開演

参加費：３，０００円/大人　１，０００円/中学生以下

場所：箕面市文化交流センター大会議室

申込：minohcharityconcert@gmail.com

●コンサート in京都

８月１日（月）１９時開演

参加費：４，０００円/大人　１，０００円/中学生 以下

場所：京都・東山/パビリオンコート

申込：kyotocharityconcert@gmail.com

主催:　みのおチャリティーコンサート実行委員会（050-5889-9783）

後援:　豊能障害者労働センター

出演　おかもと　しんいちろう Shinichro Okamoto/ヴァイオリン
りゅう　ひぁんりょ　Hyanryo Ryu/ヴァイオリン
よしだ　かおり Kaori Yoshida/ヴィオラ
いいだ　たかし Takashi Iida/ヴィオラ
みやじ　はるひこ Haruhiko Miyaji/チェロ
おだなぎ　ゆう Yu Odanagi/チェロ
とびた　ゆうじ Yuji Tobita/コントラバス
なかい　ゆきこ Yukiko Nakai/ピアノ

応援団からこんにちは VOI2

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第２弾!

東京都　ＮＰＯ法人　サポートぱんぷきん　おかじま　みほ

もともと地域の中で助け合いを広げようで始まったサポートぱんぷきんは、1995年に立ち上がりました。配食や移送サービス、有償ボランティア派遣が主な事業でしたが 1999年にＮＰＯ法人としてスタート。配食・移送サービスのほか高齢者や障がい者(児)の日常生活を支える、訪問サービスを行っている団体です。

災害で思い出すことは、2011年3月11日の東日本地震でした。突然の揺れ、私 は訪問介護員

として夜勤明けで家に居ました。電話やメールは不通。懸念だったのは、当時利用者の中で最重度の呼吸疾患と医療ケアが必要な重度心身障害者でした。その現場にいるパートヘルパーに、お子さんが待つ家に引き上げてもらうため交代要員で向かうことにしました。さいわい当法人にかかわる利用者様の命に別状はなかったのですが、災害も戦争も止めば終わりということではないことが身に沁みました。

また地震以外でも自然災害は火山噴火や地盤沈下、台風や土砂崩れ、河川の氾濫等いろいろな状況があります。介護福祉の現場では、どのように被災者の日常生活を守りつなげられるか、ということが課題です。

2019年台風19号が首都圏に直撃した事例。世田谷区・大田区と、川崎市の間に流れる多摩川が、危険水域を越え世田谷区で堤防決壊、田園調布のあたりで一部住宅域に浸水しました。精神障害で外に出られないでいる方のご自宅も床上浸水し、翌朝保健所職員が訪問され布団も何もかも水浸しで困っている中、乾パンと消毒液だけ渡し引き上げていった、とのこと。被災時でも、困りごとや生活の支援は行政だけに頼ることは無理なのだと改めて思い知りました。直面したのは、フォーマル、インフォーマルな社会資源の横のつながりが乏しいということです。

ゆめ風基金は、鎌倉を拠点に重度心身障碍者(児)訪問支援をされている事業代表の方から教えて頂きました。感謝。

ひととひとは、どこかで誰かと見えない糸でつながっている、誰もがともに地域で生きていくために、できることから始めてみたいと思います。

横浜市　ＮＰＯ法人ぷかぷか 代表　たかさき　あきら

ＮＰＯ法人ぷかぷかです。ぷかぷかは代表の高崎が養護学校教員をやっている時に、障がいのある子どもたちに惚れ込み、彼らとはいっしょに生きていった方がトク！と思い、定年退職の時に、彼らといっしょに生きる場として作りました。ですから彼らを「支援」するといったことはしません。

社会にあわせるのではなく、そのままのあなたが一番ステキ！といい、彼らの魅力に気がついた人達が「ぷかぷかさんが好き！」というファンになりました（「ぷかぷかさん」はぷかぷかで働く障がいのある人達のこと）。彼らはあれができなこれができない人達ではなく、社会を耕し、豊かにする人達です。実際、この10年でぷかぷかのまわりはずいぶん変わりました。「ぷかぷかは街の価値を上げている」と言ってくれる地域住民も現れました。

パン屋、お惣菜屋、お食事処、アートスタジオ、焼き菓子工房を運営し、42名の方が働いています。「障がいのある人が作ったものだから買ってあげる」という関係ではなく、「おいしいから買う」という関係こそ作りたいと思ってやってきました。ほかのお店に負けないくらいおいしいものを作っています。

お店の運営のほか、地域の人たちといっしょに演劇ワークショップをやり、６ヶ月かけて作った芝居を大きなホールの舞台で発表します。その舞台を見ると、彼らとはいっしょに生きていった方がいい、ということが一目でわかります。いっしょに生きると何が生まれるのかもわかります。ホームページもご覧ください。

カンパを頂いた団体　2022/01-2022/03

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません。

1/5　ビー・カンパニー(岐阜市)、 草の実家族会（札幌市）
1/7 かがやき工房（旭川市）、 みょうげんじ（名古屋市）
1/18 らふ（さいたま市）
1/19 手をつなぐさくら（千葉佐倉市）
2/2 わっこ自立会（上田市）
2/3 あおぞら湯（大阪市）
2/10 たびだちのなかまの会（大阪市）
2/16 聖バルナバ病院礼拝堂（大阪市）
2/17 プール幼稚園（大阪市）
2/24 沖島電機(沖縄県)
2/25 飛翔の会（御殿場市）
3/2 カトリック教会（枚方市）
3/15 諫早手話サークル（諫早市）
3/16 いーはとーぶ（さいたま市）
3/17 アトム電器あんこうじ店（高槻市）
3/22 じょうみょうじ(今治市)
3/23 わだちコンピュータハウス（名古屋市）、 とくゆうじ（南松浦郡）
3/24 ひまわり事業団（静岡市）、むぎわらぼうし（春日部市）
3/25 自立生活センター松山（松山市）
3/29 ハートフル親の会(大東市)
3/30　豊中市立障害福祉センターひまわり （豊中市）
3/31　ほっと はあと （総社市）、じょうふくじ （大阪市）、かまくら福祉・教育ネット（鎌倉市）

事務局の動き　2022 年 1 月から 3 月の動きを一部紹介します。

毎週月曜日　事務局会議

１月１２日　通信臨時号（寄付者向け領収証含む）発送

１月１７日　大阪府防災訓練参加　　おおさか災害ネットワーク（ＯＳＮ）会議

１月２４日　内閣府主催防災研修参加

１月２５日　ＯＳＮ定例会

２月２日　通信９８号編集 会議

２月７日　ＯＳＮ会議

２月８日　内閣府主催防災研修参加

２月１４日　理事会

２月１７日　大阪府、大阪府社会福祉協議会，ＯＳＮ三者連携会議

２月１８日　通信９８号編集 会議

２月２１日　内閣府主催防災研修参加

２月２７日　福岡県那珂川ボランティア連絡協議会講演

３月２日　サポートＶ記念冊子打ち合わせ

３月９日　「誰一人取り残さない防災プロジェクト」報告会参加

３月１０日　天王寺区「気づけるランド」講演

３月１５日　ＯＳＮ会議

3 月 16 日　東住吉区講演

３月１６日、１７日　通信98号発送作業

3 月 17 日　三者連携会議

３月２０日　ゆめ風基金総会

３月２３日　高槻市社会福祉協議会講演

３月２３日　通信99号編集会議

３月２３日　サポートＶ記念冊子打ち合わせ

会計報告　　別紙

そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2022.1-3

◆作業所で制作される小もの（袋、アクセサリー等）のご紹介を希望します。日常使いができるものがいいです（藤岡市）
◆私自身大阪北部地震を経験いたしました。とても大きな被害が自宅にありました。精神障害者としてとても不安になりました。精神障害者の応援もよろしくお願いいたします（吹田市）
◆今年も、この時がやってきました。決して忘れては行けない事（直方市）
◆地球というところに住まわせてもらっているという原点に戻らないとな、と思います（さいたま市）
◆おっきな目でみれば、たぶん地球の変動期に入ったのでしょう。地球の時間からすれば私達人間の存在する時間は微々たるもの謙虚に日々の営みを続けさせていただきたいものです。合掌（甲賀市）
◆しんどいです（東大阪市）
◆「継続は力なり」活動期間も長くなり、さまざまありました。これからも見守らせていただきます（茂原市）
◆どうして人類は仲良く生きられないのでしょうか（大阪市）
◆コロナも戦争も早く無くなれ！　（大阪市）
◆災害も戦争もなくなりますように（幌泉郡）
◆ゆめ・風の人と人とのつながりを太くする活動に使って下さい（杉並区）
◆今年ついに 70 才！元気の証の募金。11 回目です（世羅郡）
◆災害が絶え間なく続いてつらいです。被災者支援ありがとうございます。よろしくお願いします（港区）
◆牧口さん、ほんとうにご苦労様でした！（宝塚市）
◆また地震です。久々の停電になりあわててしまいました（台東区）
◆ウクライナ人にもロシア人にも平和がありますように（長岡京市）
◆退職して年金生活になったので少しづつ貯めて長く送ります。ウクライナが気になります（横浜市）
◆楽な事ばかりに目が向くこの頃を少し反省しています（四万十市）
◆戦争反対！コロナや地震、自然災害に立ち向かわなければいけないのに、愚かな人間がいるのが残念です（大津市）
◆平和を祈って（川崎市）

◆宮城・福島へ（足柄上郡）
◆コロナに、東北では又地震。不安な毎日です。誰もが無事に日常を過ごせるよう祈るばかりです。少額ですがお役立て下さい（船橋市）
◆久々に寄付します。人々の小さな営みが守られますように（川崎市）
◆当り前の生活を。戦争反対！（静岡市）
◆税金の還付があったので、おすそ分けを少し…（佐世保市）
◆東北の地震に胸が痛みます。少しでもお役にたてることを願っています（船橋市）
◆少額ですが、心をこめて（福井市）
◆母が傘寿を迎えた記念です（大田区）
◆牧口代表替わられるとか。ぜひ頑張ってほしいものです。まだまだコロナ禍のもとで楽観はできませんが未来に希望を持って前進したいものです（雲南市）
◆わずかで申し訳ありません。宝くじはずれたから（名古屋市）
ゆめ風ブログ（https://yumekazek.com/blog）

編集後記
最近、各地で地震が多いなと感じています。大きな災害が来るかも…と考えると不安で怖いのですが、できる備えをしっかりすることで、その不安を解消できるのでは？と思い、備蓄やご近所とのお付き合い、いろいろと試しています。みなさまはいざというときの備えは大丈夫ですか？災害時に家族の集合場所（近くの避難所や高台）だけでも決めておくと一歩前進ですね。（長崎）

ゆめ風ネットワーク連絡先　FAX は 06-6321-5662 まで
さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟 0252-32-7522 三条 0256-34-2448 JDS（東京）03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 京都 0774-93-3277 JCIL（京都）075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 0737-82-4060 伊丹 072-783-4991 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365 徳島 088-602-1003 岡山 0866-97-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまぐち 0833-76-0550 福岡 094-962-6003 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 諫早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8855 沖縄 098-958-2912